

DATA FILE



名前	RHODOCHROSITE (ロードクロサイト) / 菱マンガン鉱
化学組成	MnCO ₃
色	ピンク色、赤色
光沢	ガラス光沢、真珠光沢
蛍光	ピンク色、紫色
条痕	白色
劈開	完全
断口	不平坦
硬度	3.5 ~ 4
比重	3.7

菱マンガン鉱 RHODOCHROSITE

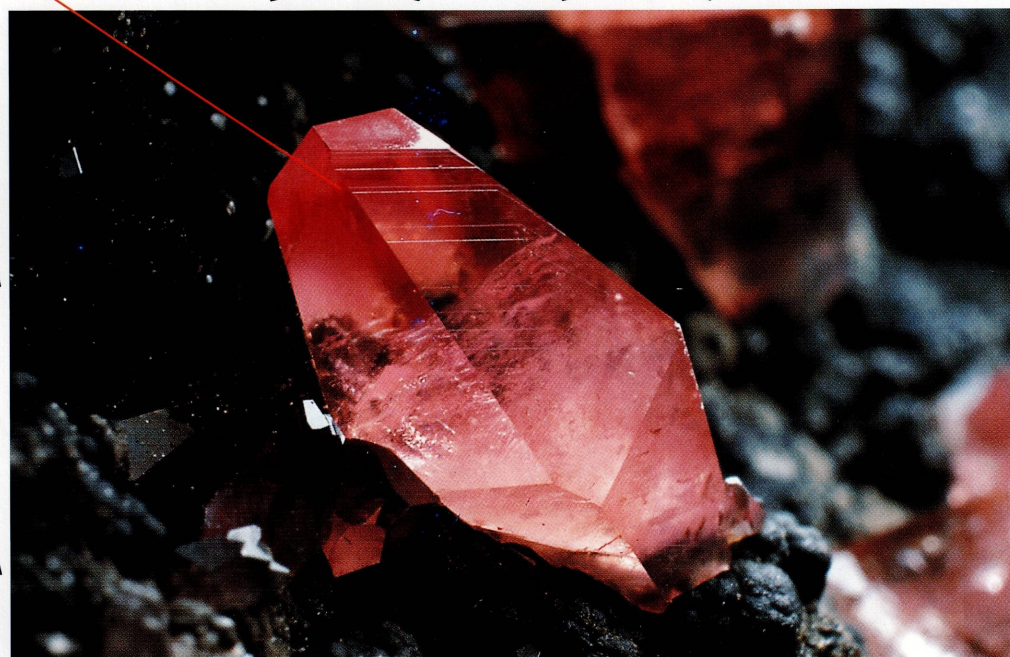
英名の「ロードクロサイト」は、ギリシャ語で「バラ」を意味する「ロードス」と、「色」を意味する「クロス」から名づけられた。

素焼きの陶板にこすりつけると白色の条痕が残る。

メキシコで産出した良質な菱マンガン鉱の結晶。

結晶はピンク色や赤色で、ガラス光沢や真珠光沢を持つ。

方解石や菱鉄鉱と互いに成分が入れかわる固溶体の関係にある。



熱水鉱脈鉱床や変成マンガン鉱床でよく見られ、石英、方解石、苦灰石、ばら輝石、テフロ石、ハウスマン鉱、ブラウン鉱などと共生する。

劈開は完全で、ハンマーでたたくと不平坦な断口があらわれる。

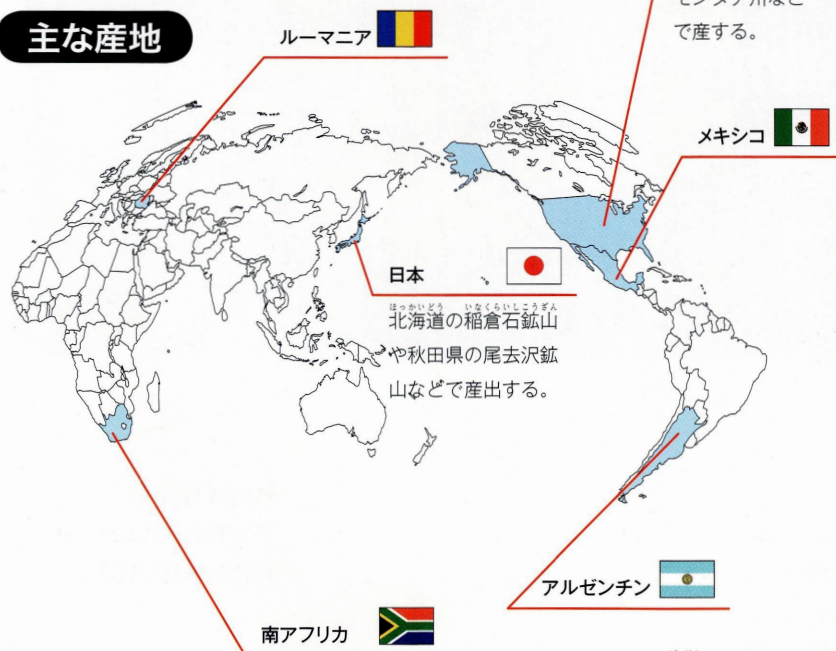
マンガン鉱石のひとつ

金属元素マンガンの重要な鉱石鉱物である菱マンガン鉱は、熱水鉱脈中に銅、鉛、銀の鉱石をともなって生成するほか、堆積した二酸化マンガン層が変成を受けることによって形成される。結晶は、主に菱形や犬牙状、繊維状結晶が集合してブドウ状、鍾乳状、大きな塊状であられるが、微小な粒状や緻密な層状結晶で産することもある。ケイ酸塩鉱物のばら輝石と外見がよく似ているが、菱マンガン鉱の場合は希塩酸をかけると発泡して溶けることから判別可能。なお、菱マンガン鉱のなかには、湿度の高い場所に放置されると黒色や褐色の外殻を生じるものがあるので、標本を保管する際には乾燥剤を入れておくが良い。



▲秋田県の尾去沢鉱山で産出した菱マンガン鉱。

主な産地



▶カボション・カットの菱マンガン鉱。



▼▶宝石として利用される菱マンガン鉱。



装飾品に利用

質の良い菱マンガン鉱は、宝飾や装飾に広く用いられている。赤色が濃いほど質が良いとされるが、産出が珍しく、通常はマンガンの一部がカルシウムに置きかわっているためオレンジ色がかった結晶になったものが多い。また、赤色とピンク色の面が交互に帯状を成しているものも人気が高く、そのなかでも均整のとれた模様が入っているものは、宝石として価値が高い。アルゼンチンのサン・ルイス州には、世界で最も古くから菱マンガン鉱が採掘されている鉱山があり、ここから産出する縞模様があらわれた菱マンガン鉱は、別名「インカ・ローズ」と呼ばれている。



▶母岩にともなって生成した菱マンガン鉱の結晶。アメリカ・コロラド州産。